

〈八丁原出張所〉

八丁原地熱発電所 5.5万kw達成
記念久住登山行

〔八丁原＝6月15日〕当社八丁原出張所では、九州電力株式会社八丁原地熱発電所が熱水型では世界最大級の出力5万5千KWに達したため、その記念として久住登山を行った。

省エネルギー、エネルギー多様化が叫ばれている現在、「自然の熱」つまり大地がボイラの役割を担っている地熱発電は資源少国日本にとって非常に価値あるエネルギーとされており、八丁原地熱発電所の出力アップ、まして世界最大級(熱水型)となれば、同業務に従事した関係者にとって最大の喜びである。当社もこの地熱発電所の建設から現在の修繕業務に至るまで従事しているため、

その喜びも一際大きかった。このような背景で、八丁原出張所員にその家族等を含めた記念久住登山が行われたのである。

登山前日の6月14日は、曇り時々雨のあいにくの空模様であったが、本店から佐藤部長、前山部長を迎え、また八丁原出張所従業員の家族等総65名は、キャンプファイヤーを囲み、共に歌い、共に踊り楽しい夕べを過ごした。

久住登山当日の15日は全員6時30分からラジオ体操を行い、今日の一、日所長矢野清美夫人のリードで全員「安全の誓い」を唱和。8時40分に登山口の牧ノ戸から登山予定者56名



山頂に登山記念を

が登り始めた。ある者は背負子にわが子を背負い、またある者は手を引き、途中小まめに休みながらではあったが、一人の落伍者も出すことなく久住山頂を踏んだのは11時過ぎ。四方は霧に囲まれて見晴らしはよくなかったが、全員で登山記念の木杭を頂上に建て、午後1時30分に牧ノ戸に無事下山した。

資格取得おめでとう

- ガス溶接作業主任者(4月8日)
(玄海)西嶋直澄、小野昭好
(富山)浜本 勇
(豊前)守口則一
(香焼)増田正志

主要人事異動

〔6月1日〕

- ▷松島建設所安全管理担当＝嘱託技師 今村清行(豊前建設所付 35,000kℓ燃料タンク据付工事担当)
▷川内原子力建設所副長＝技師 三厨末次(原子力部付 副長待遇)
▷富山新港建設所主任＝技師補 豊福昭光(豊前建設所主任)
▷川内原子力建設所主任＝技師補 藤田俊男(原子力部原子力建設工事課主任)
▷川内原子力建設所主任＝技師補 相良耕一(川内原子力建設所)
▷川内原子力建設所主任＝技師 加来文麿(川内原子力建設所)

〔6月10日〕

- ▷豊前事業所主任＝技師 宇山昭三(豊前建設所主任)
▷松島建設所主任＝技師補 山川一敏(豊前建設所主任)
▷富山新港建設所主任＝技師補 高橋広次(豊前建設所主任)

〔6月14日〕

- ▷松島建設所長代理＝技師 山口計一(豊前建設所長代理)
▷建設工事部付〈副長待遇〉＝技師 近藤不二雄(豊前建設所長代理)
▷豊前事業所副長＝技師 秀田豊(豊前建設所副長)
▷松島建設所副長＝技師 浦川要(豊前建設所副長)
▷大牟田事業所主任＝技師 坂田年(豊前建設所主任)

- ▷建設工事部付〈主任待遇〉＝技師補 末久喜一(豊前建設所主任)
▷豊前事業所主任＝技師補 西村賢三(豊前建設所主任)

〔6月15日〕

- ▷大分事業所付〈所長待遇〉＝嘱託副参事 徳光恒一(豊前建設所長)
▷豊前事業所付〈副長待遇〉＝主事補 井上茂(豊前建設所長代理)
▷原子力部原子力建設工事課主任＝技師補 原真一(玄海建設所主任)

〔6月21日〕

- ▷川内原子力建設所主任＝技師補 作本勝司(新相浦事業所主任)

〔7月1日〕

- ▷玄海事業所副長＝猿渡進一(玄海事業所副長 品質管理担当)
▷川内原子力建設所主任＝技師補 小林弘(松島建設所主任)
▷川内原子力建設所主任＝技師補 中園俊二(原子力部原子力品質保証課主任)
▷建設工事部電気計装工事課主任＝技師補 西山友幸(建設工事部電気計装工事課)
▷伊方建設所主任＝技師補 石井博(伊方建設所)
▷玄海事業所主任＝技師補 古賀昭伍(玄海事業所)
▷営業部営業一課主任＝書記 大藪英機(営業部営業一課)
▷総務部人材開発課主任＝書記 中川清俊(総務部人材開発課)
▷玄海事業所主任＝技師 合戸康夫(玄海事業所)



出発前の元気な姿

安全ミニ・ニュース

急がば回れ

〈正しい作業が早い道〉

“急がば回れ”という諺をよく耳にしますが、辞書で引いてみると次のような意味が書いてあります。

「危険な近道よりも安全な本道を回ったほうが結局は早く目的地に着く」と。

長い歴史の中での経験から生まれただけあって、この諺はいろいろな教訓をわれわれに与えてくれます。まず第一に、安全を進めてゆくの到手と早い安全な方法はなく、真正面からぶつかる正道はなく、真直な道です。もう一つは、作業を急いでやろうとすれば作業手順などを正しく踏んではたしたほうが、途中を省略するよりも結局最後は早く完成し近道となるということです。

“安全に特効薬なし”といわれるように、一発でドンピシャリと災害を追放する妙手はありません。めんどうでも基礎からの積み上げ以外には手はないのです。整理整頓を口をすばくして言うのもそれが安全のイロハのイであるからです。高所作業で足場に手すりをつけたりして職場を安全なものにする必要性はいうまでもありません。

作業を能率よく、安全にするための作業標準も積み上げの基礎に

入ります。その他、防塵マスク、命綱、安全帽などの保護具の着用も忘れてはなりませんし、もろもろの安全規則も重大な役割をもっているのです。

このような一連の対策の積み重ねが“安全な回り道”に通じるのです。こう考えてみますと、不断案外に軽く考えていることがらも、改めてそれが持っている意味の大きさ、重大さに気がつくはず。例えば「今まで何年間もこの機械操作に事故はなかったから、たまには点検を省いてすぐ動かしてもかまわない」とか、「どうしても納期に間に合わないから手順を一部飛び越えて突貫作業をやる」というようなことは、結局は早く、正確な仕事には結びつかず、歪のあるものになるのです。

安全のためのルールを守ることには以上のような意味において、単にわれわれを災害から守るだけでなく、作業能率の向上にもつながっているものといえます。

われわれの現場からケガを追放し無災害の新しい記録を立てるためにも、この際“急がば回れ”という諺の意味を改めて考え直し、日々の安全作業に努め作業能率の向上をはかりましょう。

豊前2号機運開(6月6日)

全員一丸となり

無事故・無災害で工事完遂

当社は、九州電力株式会社豊前発電所(豊前市八屋町)2号機のボイラ、タービン発電機、排煙脱硫装置の据付ならびに海水淡水化装置などの一部製作据付工事を行い、今年1月11日の初並列以後試運転作業中であつたが、去る6月6日に同2号機は営業運転を開始した。

これに伴って、当社豊前建設所は6月15日に廃止した。

同2号機増設工事において、当社はボイラ(蒸発量毎時1,750トンのB&W超臨界貫流式UPボイラ)を日立プラント建設株式会社、タービン・発電機(出力50万KW)を東芝プラント建設株式会社、排煙脱硫装置を川崎重工業株式会社、海水淡水化装置(スタック型造水装置で日量2,000トン造水)を株式会社笹倉機械製作所、その他各装置、設備についてもそれぞれ受注し、鋭意工事に取り組んできた。昭和53年5月10日に豊前建設所を開設して以来、工事は順調に進み、同年12月22日にボイラヘッダー揚げ、翌54年11月12日にボイラ火入れ、同年12月18日にタービン通気を行い、今年1月11日に初並列、6月6日の営業運転開始となったのである。

この約2年間の工期を振り返って徳光所長は「客先やメーカーの方がたの適切なご指導によることはもちろん、建設従事者全員が一丸となり、安全のレー

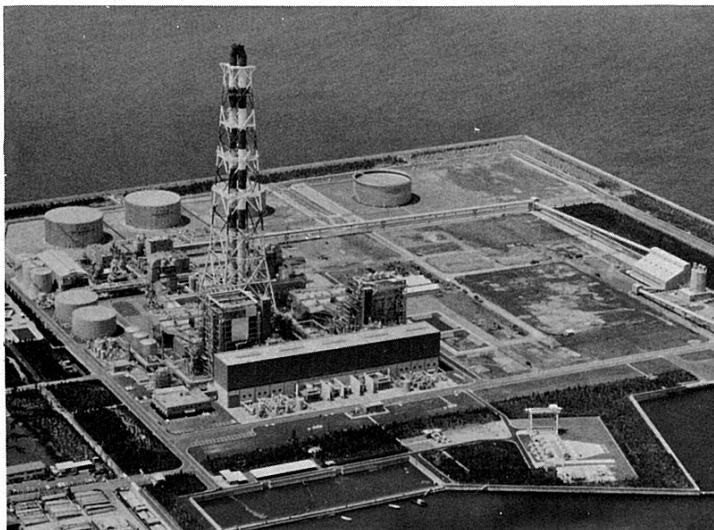
ルに乗ってきたため無事故、無災害で工事を完遂することができた。これから皆他所に分れていくが、厳しいが大切な安全のルールから外れることなく各々頑張ってもらいたい」と語った。

同発電所では2号機が運開したことにより、2基で出力100万KWとなり、九州電力株式会社にとっては新小倉発電所(出力151.2万KW)、唐津発電所(出力103.1万KW)に次ぐ第3番目の大容量の発電所となった。また、同発電所は、排煙脱硫装置の設置、温排水対策としての深層取水方式、NOx対策としての二段焼方式および低NOxバーナーの採用など環境対策にも十分な力を入れている。

東京芝浦電気(株)から感謝状を受ける

当社は、九州電力株式会社豊前発電所2号機の建設工事において、東京芝浦電気株式会社から6月30日に感謝状を受けた。

これは、既に営業運転を開始している同発電所2号機の建設工事において、全員一致協力し、安全確保に努力し無災害延労働時間50万時間を達成すると共に、当社の技術と工事経験をもちて完成に尽力し、工期の確保に多大の貢献をしたとして、東京芝浦電気株式会社重電建設部森田部長から当社に贈られたものである。



豊前発電所全景